



受け継ぎ 語り継ぎ 継ぎ

被爆80周年企画展

— 広島の惨禍と

被爆者の思い —

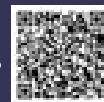
とき 令和7年 3月7日(金) ▶
令和8年 2月28日(土)

ところ 国立広島原爆死没者
追悼平和祈念館
地下一階 企画展示室及び体験記閲覧室
〒730-0811 広島市中区中島町1-6
Tel: 082-543-6271 / Fax: 082-543-6273

開館時間 3月～7月 8:30～18:00
8月 8:30～19:00 (5日、6日は20:00)
9月～11月 8:30～18:00
12月～2月 8:30～17:00
※休館日/12月30日及び31日

入場
無料

祈念館HP
企画展ページ▶



原爆ドーム周辺(撮影:米軍/提供:広島平和記念資料館)

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、15万編の被爆体験記を収集・保存・公開しています。

被爆から80年。被爆者の書き綴った手記は、原爆被害の実相を訴え続けてきました。

企画展では、広島の惨禍と被爆者の思いを、映像や資料を交え体験記で紹介します。



高橋茂さん

一瞬のフラッシュのような閃光と共に「ザーツ」と何かを浴びるような感じと、異臭と共に吸い込まれるように意識がなくなった。どのくらい経ったのかぼんやりと意識が戻ってきた時は校舎の下敷きになっていた。(中略) 頭から流れ出た血が頬を伝いシャツにポタポタ落ちるのが分かった。シャツは真っ赤に染まっていた。(中略) そこはおびたらしい人の流れで、燃えていない南へと避難する人々であった。怪我をした人、火傷を負った人、足を引きずっている人、身内を捜して走る人、親を呼び子、子と呼ぶ親、上半身裸で歩いている人、よろめき歩く人、数人で抱き合いながら歩く人、全身を血で染めた人、目が見えないと訴える人、火傷で皮膚がむけぼろのように下がっている人、お化けのように両腕を胸の前で下げて歩いている人々であった。衣服は皆ボロボロになり、苦痛に歪んだ顔は皆煤けて黒くなり、安心してうつろな顔で歩いている人もあった。

高橋茂さんの体験記全文は
こちらからお読みいただけます



藤井八枝さん

姉は岡山へ帰ってから、大阪の大学病院で三年間入院して、むつかしい整形手術を繰返し行ったのに、完治できず、51才で亡くなるまで人々の好奇の目にさらされ、食事も人前でとれず、世の中の片隅で隠れる様に戦後を生きたのです。最後はやはり原爆症だったと思います。原爆は火傷ばかりか、姉の場合、口の中から化膿が始り、1、2ヶ月後には、皮膚はとける様にくさり、骨や歯迄溶かした如く、はづれて無くなったのです。私は声を大にして叫びたい。この無差別的な原爆の残酷性を全世界に向けて訴え続ける事こそ、私達被爆者の使命だと思っています。二度と被爆者を作らない平和な時代を待つ。

藤井八枝さんの体験記全文は
こちらからお読みいただけます



交通案内

JR広島駅(南口)から(約20分) ※すべて下車後は徒歩約5分
バス／広島バス吉島方面行で「本通り」下車
市内電車／紙屋町経由広島港(宇品)行で「本通」下車
宮島口、江波行で「原爆ドーム前」下車



国立広島原爆死没者
追悼平和祈念館

〒730-0811 広島市中区中島町1-6 Tel: 082-543-6271 / Fax: 082-543-6273

<https://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp>

広島追悼祈念館

検索